

議 案 提 出 書

件 名 オスプレイの安全性が確認されるまでは飛行させないことを求める意見書（案）

上記の議案を別紙のとおり、長野市議会会議規則第14条第1項の規定により提出します。

平成24年 9 月 21 日

長野市議会議長 衿 津 栄 喜 様

提出者	長野市議会議員	近 藤 満 里
賛成者	長野市議会議員	宮 崎 治 夫
	同	倉 野 立 人
	同	岡 田 荘 史
	同	野 本 靖
	同	布 目 裕喜雄
	同	市 川 和 彦

オスプレイの安全性が確認されるまでは飛行させないことを求める  
意見書（案）

国民の生命と財産を守ることは、政治の責任です。

オスプレイは現在、普天間基地に配備されているヘリコプターに比べて、速度は2倍、搭載量は3倍、航続距離は4倍という性能を有していると言われ、抑止力向上から現行機の後継機とされていますが、開発段階から事故が相次ぎ、今年に入っても事故が相次いでいます。取り分け、米軍専用施設の74パーセントが集中する沖縄県の仲井眞知事は、オスプレイがもし、人口密集地帯に落ちれば、沖縄全基地の即時閉鎖を求める動きになるとまで述べています。これは、県民の命を軽視することへの憤りの表明であり、極めて重たい心情の吐露であります。

なぜ今までは事故が起き、どうしてこれからは事故が起きないと言えるのか、安全性に関する丁寧な説明が必要です。

また、オスプレイの運用に関し、米軍が政府に提出した環境審査報告書によると、訓練ルートの一部に長野県内が含まれており、オスプレイが長野県の上空を低空で飛行することに不安の声もあります。

つきましては、国に対し、国民の生命と財産を守る立場から下記の事項について要請し、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

記

オスプレイの運用については、国民が納得し得る安全性が確認されるまで、飛行を差し控えさせるよう、米国側と粘り強く交渉すること。

平成24年9月24日

衆議院議長  
参議院議長  
内閣総理大臣  
外務大臣  
防衛大臣  
宛

長野市議会議長 柘津栄喜